

◎原 著

温泉療法が骨関節症患者のQOLに及ぼす効果

横井 正, 千田益生¹⁾, 光延文裕, 保崎泰弘, 芦田耕三, 西田典数
 柘野浩史, 永田拓也, 高田真吾, 谷崎勝朗, 井上 一²⁾

岡山大学三朝医療センター
 岡山大学附属病院リハビリテーション部¹⁾
 岡山大学附属病院整形外科²⁾

要旨：近年QOLが重視されるようになってきている。MOS short form 36 health survey (以下SF-36と略す) は、国際的レベルでの基準とされるべく開発された非疾患特異的HRQOL尺度である。今回、我々は当院でリハビリテーションをうけているOA患者を対象に温泉療法の効果をSF-36を用いてQOLの変化を調べた。SF-36の8項目をそれぞれ算出し、温泉療法前後でのQOLの比較を行った。PCSは36.4から37.1へ、MCSは53.0から55.4へ上昇したことより、身体・健康面ともに効果があると考えられた。

検索用語：SF-36, 生活の質, 関節症

Key words：SF-36, Quality of Life, Osteoarthritis

目 的

5名、腰痛症5名、脳梗塞1名であった。平均治療期間は43.4日(19～56日)であった(表1)。

温泉療法は最も古くから行われてきた物理療法であるが、学問的に検討が加えられたのは比較的近年のことである。温泉療法の作用として温熱作用、静水圧作用、精神をリラックスさせる作用などが挙げられるが、QOLが重視されるようになってきている現代社会において温泉療法がどのように患者のQOLに影響を及ぼすかを検討した。今回、我々は当院で温泉療法をうけている骨関節症患者を対象にQOL評価を行った。

対 象

当院入院患者11名に同意を得て行った。性別は男性5名、女性6名であった。平均年齢70.8歳(55～85歳)であった。対象疾患はRA2名、OA

表1. 対 象

性別	男性5名 女性6名
平均年齢	70.8歳 (55～85歳)
疾患	RA2名 OA5名 腰痛症5名 脳梗塞1名
平均治療期間	43.4日 (19～56日)

QOL尺度としてはSF-36を用いた。以上の11名にSF-36を用いてQOL調査を行った。

結 果

SF-36の8項目をそれぞれ算出した。下位尺度素点を計算し、0点から100点までの範囲の下位尺

度得点に変換した。身体機能は55.5から62.2へ、日常役割機能(身体)は17.5から33.3へ、身体の痛みは36.2から41へ、全体的健康感は55.6から58.4へ、活力は50.2から59.8へ、社会生活機能は66.3から72.2へ、日常役割機能(精神)は30から48.1へ、心の健康は60.8から69.9へと、すべての項目において上昇が認められた(図1)。

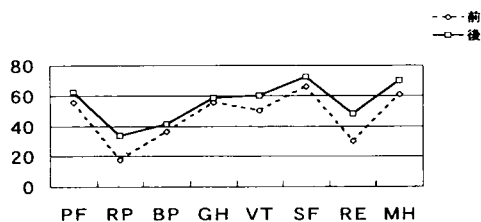


図1. 温泉療法前後のQOL

また、8つの下位尺度は、身体的健康を表すサマリースコア(PCS)および精神的健康を表すサマリースコア(MCS)の2つの因子にまとめ上げることができる。PCSにおいて非常に低いスコアは、自身へのケア、身体機能、社会機能に対して大きな制限をもっている、もしくは身体に強い痛み、倦怠を伴っているような状態を表している。MCSにおいて非常に低いスコアは頻回にわたる心理的な疲弊、心理的な問題による社会機能や役割機能の不全が著しい状態を表している。

今回の調査では50を基準値とするとPCSは平均36.4から37.1へ上昇し、MCSは平均53.0から55.4へ上昇した(表2)。

表2. 温泉療法前後のQOL

	療法前	療法後
PCS(身体的健康度)	36.4	37.1
MCS(精神的健康度)	53.0	55.4

考 察

Constant Fらは慢性腰痛患者128人に温泉療法を行い、QOLが身体精神面において著明に改善したと報告している。岡本らは腰痛症患者12名を対象に温泉療法の臨床効果について検討を行い、治療前後で有意の改善がみられたとしている。

温泉療法の作用として温熱作用、物理作用、化学的作用、精神をリラックスさせる作用などが挙げられる。また、当院では鉱泥湿布という人形峠から採取した鉱泥を高温であたため、湿布状にして患部に当てるといった療法も行っておりこれらの作用が骨関節症患者のQOLにどのような効果をもたらすか評価を行った。今回の検討では、SF-36のすべての項目において温泉療法後に上昇が認められた。PCSは36.4から37.1へ、MCSは53.0から55.4へ上昇したことより、温泉療法は身体・精神両面への効果があると考えられる。今後、疾患別に効果の検討を行っていきたい。

ま と め

1. 温泉療法をうけた患者11名に対してSF-36を用いてQOL評価を行った。
2. SF-36の8項目すべてで温泉療法後に上昇がみられた。
3. PCSは36.4→37.1へ、MCSは53.0→55.4へ上昇したことより、身体・健康面ともに効果があると考えられた。

文 献

1. 福原俊一, 黒川 清, 鈴嶋よしみ. SF-36 日本語マニュアル (ver. 1.2). (財)パブリックヘルスリサーチセンター. 東京, 2001年
2. Constant F: Use of spa therapy to improve the quality of life of chronic low back pain patients. Med Care 36 (9): 1309-14, 1998.
3. 岡本 誠: 腰痛症に対する温泉療法の効果. 岡大三朝分院報告68: 51-58, 1997.

QOL in OA patients

Tadashi Yokoi, Masuo Senda¹⁾,
Fumihito Mitsunobu, Yasuhiro Hosaki,
Kozo Ashida, Norikazu Nishida,
Hirofumi Tsugeno, Takuya Nagata,
Shingo Takata, Yoshiro Tanizaki,
and hazime Inoue²⁾

Misasa Medical Center,
Department of Rehabilitation¹⁾,
Department of Orthopaedics²⁾,

Okayama University
Medical School

We have recently regarded the QOL as an important index in the treatment of disease. SF-36 is a measure of HRQOL made as an international standard. We investigated the QOL in OA patients who underwent rehabilitation in our hospital using SF-36. We calculated PCS and MCS of SF-36. PCS went up from 36.4 to 37.1. MCS went up from 53.0 to 55.4. The spa therapy for OA patients is effective.